

プレスリリース

2016年5月23日

国境なき医師団 (MSF)

病院が攻撃されている状況に目を向けて——MSF、証言活動を開始

アフガニスタン、シリア、イエメンなど、世界の紛争地では昨年来、医療施設を標的にした攻撃が繰り返されている。国境なき医師団 (MSF) は、こうした非人道的事態を強く非難し、医療の保護という国際的な原則が守られるよう、国際社会に理解と行動を求めてきた。

日本においても、病院が攻撃されている状況を広く一般社会に証言・共有し、国際ルールが守られるよう、団体の枠組みを越えて理解と協力を求める活動を開始する。2016 年を通じたこの活動の第一弾として本日、公式サイトに特設ページ、「病院を撃つな！：患者が攻撃の対象となってはならない」を開設、さらに日本の主要オピニオン・ニュースサイトである「アゴラ - 言論プラットフォーム」「ハフィントンポスト日本版」「BLOGOS (ブロゴス)」の3媒体に、MSF 日本会長・事務局長の連名で寄稿を行った。

止まない病院への攻撃

2015 年 10 月 3 日、MSF がアフガニスタン・クンドゥーズ州で運営する病院が米軍による爆撃を受け、42 人も患者・スタッフが犠牲となった。攻撃について MSF は、第三者機関による独立した調査を求めてきたが、いまだ実現には至っていない。直近では 4 月 27 日に、シリア・アレッポ市で MSF が支援するアルクッズ病院が空爆に遭い、町に残っていた最後の小児科医を含む少なくとも 50 人の命が奪われた。医療施設への攻撃は昨年 10 月のクンドゥーズ以来、MSF の施設に限っても、その数は既に 10 回を超えている。

医療施設への攻撃は、施設にいる患者やスタッフの生命を奪うのみならず、紛争下で医療を受ける手段が極めて少ない地域住民から、その機会を奪うことになる。予防接種の欠如による感染症、貧血、肺炎、糖尿病、心疾患などで、多くの命が失われている。

机上の空論に終わらせないために

国連安全保障理事会は 5 月 3 日、紛争下での病院、医療・人道援助活動従事者、傷病者へ

の攻撃を強く非難し、そうした事態に対して迅速で公正な調査を求める決議を全会一致で採決した。この決議作成には、日本も提案 5 カ国のひとつとして加わっている。この国連安保理決議が机上の空論に終わり、反故にされるようなことがあってはならない。

「私たちは患者を見捨てはしません。そして、沈黙もしません。医療を求めること、そして医療を提供することが自らの死の宣告となってはならないのです」。MSF インターナショナル会長 ジョアンヌ・リユー医師は、安保理の会合でこう演説した。

医療施設の攻撃・破壊が意味するものは何か——国際社会のこれからの歩みが問われている中、MSF は多くの人びとからの理解と協力を求めていく。

<参考 URL>

特設ページ、「病院を撃つな！：患者が攻撃の対象となってはならない」

http://www.msf.or.jp/news/detail/special_3118.html

アゴラ - 言論プラットフォーム

<http://agora-web.jp/archives/2019335.html>

ハフィントンポスト日本版

http://www.huffingtonpost.jp/hiroyuki-kato/want-medical-practice-should-not-be-sentence-of-death_b_10077734.html?utm_hp_ref=japan

BLOGOS (ブロゴス)

<http://blogos.com/article/176489/>

以上

本件に関するお問い合わせ先：

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本 広報担当：舘 俊平／趙 潤華

TEL：03-5286-6141／6153 携帯：090-5759-1983 FAX：03-5286-6124

E-mail: press@tokyo.msf.org <http://www.msf.or.jp>

メディア向けツイッターアカウント開設しました。  @MSFJ_Press